

# いっぱん質問

# ここが聞きたい 市政課題で活発な論戦

平成29年市議会第4回定例会の一般質問は、12月13・14・15日の3日間行われ、13名の議員が登壇し、市政全般にわたり、活発な議論が交わされました。その要旨を質問順に紹介します。



電気柵の設置

## 問 鳥獣被害と

### その対策について

## 答 総合的かつ複合的に

### 被害防止に努めている

人的被害も想定されるので、鳥獣被害防止対策への取組について伺う。



奥山行正 議員

## 問 小中学校の 問題行動について

28年度の国の調査で、小学校におけるいじめの

認知件数が、前年度比1.5倍に増加し過去最多の件数となっている。当市はいじめの件数とその対策について伺う。

に発信機を取り付け、行動範囲を調査したり、超音波システムを設置し追い払いの効果を検証するなど、総合的、複合的に被害防止に努めている。

答 次長 27年度調査で、当市はいじめ認知件数は、小学校23件、中学校16件だったが、28年度調査では、小学校127件、中学校20件と、小学校では前年度比を大きく上回る結果となった。

各学校においてそれぞれ策定している「学校いじめ防止基本方針」に基づきいじめの未然防止、早期対応に努めており、28年度にいじめと認知した事案については、全て解決済みとの報告を受けている。

問 ニホンジカだけでなくニホンザルなど有害鳥獣の被害が増えており、耕作意欲の減退だけでなく、

答 部長 市鳥獣被害対策協議会を設置し、野生鳥獣被害の拡大防止、計画的な捕獲、防護網の普及、電気柵設置、被害防止パトロールを実施し、10月末現在1377頭のシカを捕獲した。また雌ザル



JR大船渡駅と防災観光交流センター

**問** 中心市街地の復興整備が進んでいるが、現在の大船渡駅では、中心市街地の駅舎としてはあま



千葉 盛 議員

く聴く。当市としてJRに大船渡市の復興のシンボルとなる駅舎の整備を求めるべきと思うが、見

るため、津波復興拠点区

等とは考えていない。

(5) 大船渡市議会だより  
30.2.5 (No.131)

**問** 中心市街地の顔となる大船渡駅舎の整備を新たな駅舎の整備等は考えていない

考えていない

**答** 部長 大船渡地区津波復興拠点整備事業の大船渡市防災観光交流センターの整備にあたり、震災前の整備計画で想定していた駅舎の機能のうち、観光・物産情報の紹介や地域住民の憩いの場を提供する機能を備え、またBRT利用者の動線にも配慮した施設としており、鉄道やバス等公共交通の利便性を確保し、JR大船渡駅を中心とした交通結節点としての機能強化を図

域内に交通広場とともに整備を進めてきた。また、東日本旅客鉄道株式会社によって設置された大船渡駅の施設は、大船渡市防災観光交流センターが有する機能を踏まえつつ、雨風をしのぎ、駅到着時間等運行状況がわかるモニターを備えた待合室や、男女別々のトイレなどを設けた施設になっており、大船渡駅に求められる機能等は、十分に実現されると見込まれることから、新たな駅舎の整備

**問** 旧台町踏切の避難道路の建設について

**答** 現状での車両の通行については極めて困難



小松龍一 議員

**問** 旧台町踏切の所に避難のため県道丸森権現堂線から幅2mの歩行者道路が完成したが、多くの

**答** 市長 大船渡駅周辺地区土地区画整理事業区域内におけるJR大船渡

線BRTの横断箇所については、これまで東日本旅客鉄道株式会社と協議を重ねてきた。その結果、平面交差による車両横断箇所は、震災前の踏切の数を増やさないことを条件として協議が進められている。旧台町踏切付近の歩行者横断路については、昨年8月に完成し、供用されている。車両の通行については、旧台町踏切の閉鎖により利便性の低下を招かないよう、都市計画道路茶屋前線の

旧大船渡駅付近に横断箇所を設け、JR大船渡線BRT上を東西に通行できるような整備している。仮に、旧台町踏切付近の横断箇所について、県道丸森権現堂線から車両が通過できるようにする場合、道路設計上、交差点の形状を整え直さなければならず、そうすると街区の形状や関係地権者の仮換地にも影響を与え、土地区画整理事業の全体計画の変更を及ぼすことになり、現状での車両の通行は極めて困難と考えている。



旧台町踏切付近

市民から車も通せるのではないかと声が出ている。そこで県道丸森権現堂線からBRTの線路までの約37mに、海側からの一方通行で一車線を確保するべきと思うが、見解を伺う。

旧大船渡駅付近に横断箇所を設け、JR大船渡線BRT上を東西に通行できるような整備している。仮に、旧台町踏切付近の横断箇所について、県道丸森権現堂線から車両が通過できるようにする場合、道路設計上、交差点の形状を整え直さなければならず、そうすると街区の形状や関係地権者の仮換地にも影響を与え、土地区画整理事業の全体計画の変更を及ぼすことになり、現状での車両の通行は極めて困難と考えている。

旧大船渡駅付近に横断箇所を設け、JR大船渡線BRT上を東西に通行できるような整備している。仮に、旧台町踏切付近の横断箇所について、県道丸森権現堂線から車両が通過できるようにする場合、道路設計上、交差点の形状を整え直さなければならず、そうすると街区の形状や関係地権者の仮換地にも影響を与え、土地区画整理事業の全体計画の変更を及ぼすことになり、現状での車両の通行は極めて困難と考えている。